

スリナガ
ルの状況

マハラ
ジャ宮
殿の黄金
塔

印度の樂
園

スリナガルはカシミヤ王國の首府にして、漢書に罽賓國善見城と稱するもの即ち是なり。市街はゼールム河に跨り、戸數二三萬、人口約十二萬、有名なる「マハラジャ」宮殿は市の東北部に聳立し、黄金塔高く殿上に燦然たり。其周圍殊に西北部には商家薨を連れ、往來織るが如く、大小の河船舳艦相啣みて上下し、水陸共に熱鬧せる一大都會とし、就中河岸に繫留する多數の「ハウスボート」は、當地の特有として注目しに値せり。

抑もスリナガルはカシミヤ平原の中央東部に位置して、海拔實に四千餘尺、四面高峰（一萬五千尺内外）に園繞せられ、自ら別天地を成し、山水明媚、氣候温和の樂園と稱せらる。されば印度各地より、毎年避暑客の麇集するもの無慮三千人に及ぶと。而して印度横斷鐵道を距ること、二百五十哩に位置し、其の最近の停車場をラワルピンデーと云ふ。蓋しスリナガルと同停車場間には、好良なる馬車道ありて、三日乃至四日にて達し得べし。

六、佛顏の牛

曩には惡相の活達磨に接し、今此地に佛顏せる家牛を見たり。洵に好箇の對照

佛顏の牛